

第34回泌尿器科漢方研究会学術集会

会長： 笈善行(香川大学医学部泌尿器科学教室)

会期： 2017/6/17 ～

会場： コクヨホール(東京都)

一般講演Ⅱ

座長： 信州大学 石塚 修

7. 前立腺肥大症術後の排尿困難に対して
猪苓湯が有効であった2症例大分泌尿器科病院
宮内 聡秀

【緒言】猪苓湯は利尿剤の代表的な漢方であるが、効能効果として尿路性器の感染症や炎症、尿路結石形成抑制や排石促進、その他尿路感染を伴わない排尿時痛、頻尿、残尿感、排尿困難などの下部尿路の不定愁訴に用いられている。今回、前立腺肥大症術後に腺腫再発なく膀胱出口部閉塞(BOO)が解除されているにも関わらず排尿困難を訴える症例に対して猪苓湯を試みた所、有効であった2症例を経験したので報告する。両者とも証は考慮せず処方した。

【症例1】67歳、2010年3月に他院で前立腺容量30mlでHoLEP施行(切除量10g)し以後経過良好であったが2014年10月に排尿困難訴え当院受診。前立腺容量22mlで残尿50ml。排尿困難強くウロフロ不可。膀胱鏡にて残存腺腫と膀胱頸部硬化症認めため、11月13日にPVP施行。術後経過良好であったが、時折排尿困難を訴えることもあったが、2016年11月のPVP術後2年検診ではIPSS 10、QOLs 2、前立腺容量17ml、残尿5ml。2016年12月に特に介護疲れなどストレスを感じた際や感冒薬内服後に強い排尿困難が出現するため受診。尿所見はclearで膀胱鏡施行したが尿道狭窄なし、腺腫残存や膀胱頸部硬化症によるBOOは認めなかった。猪苓湯7.5g 3P 3×開始し3週間後受診時に排尿困難は改善しており、以後は経過観察とした。

【症例2】82歳、約15年前に他院でTURP施行。その後2年前より他院でタムスロシンとデュタステリド内服中であったが2016年12月に強い排尿困難と尿勢不良訴え受診。前立腺容量23ml、残尿22ml。尿所見はclear。膀胱鏡にて尿道狭窄なし、腺腫残存や膀胱頸部硬化症によるBOOは認めなかった。タムスロシン、デュタステリドを休薬して猪苓湯7.5g 3P 3×開始し、3週間後に再診した際に排尿困難、他の下部尿路症状の訴えも消失しており、当面継続処方の方針となった。両者ともに副作用は認めなかった。

【結語】猪苓湯は前立腺肥大症の術後排尿困難に対して有用であった。膀胱出口部閉塞を認めないにも関わらず排尿困難が生じる原因として排尿筋低活動(低活動膀胱)の存在を考えるが、猪苓湯により改善した。猪苓湯は膀胱機能の改善に有効であることが期待できる。